

公共工事拜見!

勝訴

国会の質問王 保坂展人 前衆議院議員 が現場を歩く②

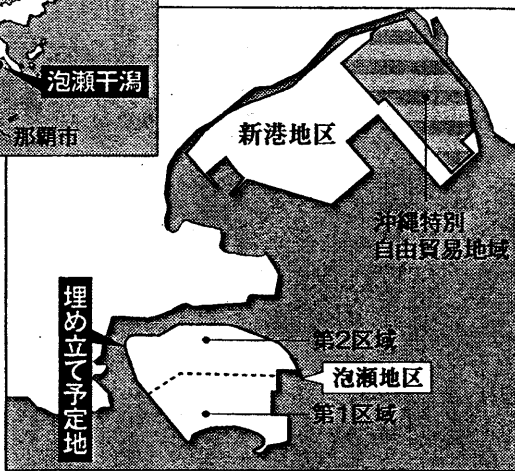
南西諸島

最大 泡瀬干潟

埋め立ての「愚」

高裁までもが「中止、判決」

民主党が事業の中止を検討する沖縄県の泡瀬干潟をめぐる、10月15日、自然保護を訴える住民たちによる公金差し止め訴訟の控訴審判決があった。一番に続く「住民側勝訴」とかく行政寄りの司法が二度までも「NO」を突きつけた意味は非常に重い。保坂展人・前衆議院議員（社民党）が、南西諸島最大の泡瀬干潟を歩いた。



「泡瀬干潟を、ぜひここから見てほしいと思って」

地元で育ち、干潟の保全に奔走する桑江直哉さん(55)に案内されて石段を上り続けた。

10月14日午後、私は、世界遺産にも登録された勝連城跡から、中城湾(沖縄市、うるま市など)を見下ろしていた。「ここも、以前は川田干潟と呼ばれる干潟だったんですよ」

手前には、国が進める中城湾新港地区の埋め立て地が広がる。1984年に着工され、393haをすでに埋め立てた。約3分の1が、99年に特別自由貿易地域(特別FTZ)に指定されている。ところが、企業誘致は進まず、広大な空き地が広がる。分譲率は、わずか2.1%に過ぎない。草に覆われた広大な空き地は、

泡瀬干潟の埋め立て事業

沖縄市がバブル期の1987年に経済活性化策として打ち出した泡瀬干潟(約265ha)の一部(約49ha)を含む約187haを埋め立て、ホテルや商業施設などを誘致してリゾート地として整備する。事業費は、国と県による埋め立てで約489億円のほか、県と市による開発で300億円以上の見込み。

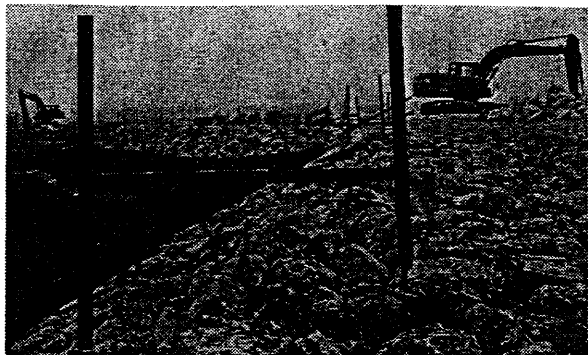
98年、国の特別自由貿易地域(特別FTZ)埋め立て工事に伴う浚渫土砂を活用することで計画は大きく前進。02年に1期工事(約96ha)が始まったが、市は07年、事業子測に無理があったとして2期工事(約91ha)を事実上断念した。反対派住民が起こした訴訟で那覇地裁が08年に県と市に公金支出差し止めを命じたが、県と市が控訴。今月15日に福岡高裁那覇支部が1審判決を支持した。干潟にはサンゴや、絶滅危惧種のトカゲハゼなど多様な海洋生物が生息している。

ずさんな計画を物語る。

その先に、たった4ヶ所しか離れていない泡瀬干潟の埋め立て工事(出島方式)が見える。この「新港地区」と「泡瀬干潟」は切っても切れない関係にあるという。

「国は、特別FTZに大型船が入るための浚渫工事が出る

第1区域を囲むように護岸ができて泡瀬干潟の埋め立て現場(左)。控訴審の勝訴を受けて喜びにわく原告団ら(右)



公金支出差し止めの一審判決が出た後も護岸工事は続けられた

土砂の捨て場に困った。そこで、泡瀬干潟の埋め立てに浚渫した土砂を使うことにして、一度は、止まっていた開発計画が息を吹き返したんです」

(桑江さん)

泡瀬干潟を埋め立てる沖縄市の「東部海浜地区埋め立て計画」は、87年にさかのぼる。海洋リゾートをうたい、ゴルフ場やスポーツ施設を建設し、人工ビーチにホテル群をつくり観光拠点とするというものだった。当初、国は計画を危ぶみ、難色を示していた。

その後、陸続きの埋め立てから出島方式に計画変更され、ゴルフ場などを削り、干潟の保全を意識して、人工干潟や野鳥園なども加わった。

それでも、開発計画には、パブルの余熱が漂う。私は超党派でつくる「公共事業チェック議員の会」の一員として2001年6月に泡瀬干潟視察に訪れている。この時の視察団には東門美津子・沖縄市長(当時、社民党衆院議員)もいた。ともに、ミナミコムツキガニの大行列に感嘆し、埋め立て計画見直しの必要性を感じた。当時、私たちは、

「豊かな干潟が何の見直しもなく、県民の議論も深まらなのまま、埋め立てられようとしている。かけがえのない干潟を観光資源とする発想の転換が必要だ」と訴えた。

議員当時の東門市長は国会でも、埋め立てを止めようという論陣を張っていた。

「新港地区では、埋め立てたためにヘドロがたまっている。恐らく干潟が埋め立てられたときには完全に死んでしまうだろうというのが専門家の意

見です。……その対策として、やはり今、工事をとめる、まづ待つてもらおう。……ぜひ一歩踏み込むようなことをしていただきたい」(04年11月9日の衆議院環境委員会、小池百合子環境相への質問)

その東門市長がいま、仲井真弘多沖縄県知事と共に泡瀬干潟の埋め立て中止を求める住民訴訟の被告人となっているのは、にわかには理解しがたい。

動植物が豊富な「自然の学校」だ

冒頭の中城湾の翌日、福岡高裁那覇支部。静かだが、ピリピリとした緊張感の走る判決の瞬間、私は傍聴席にいた。行政と住民の双方が固唾をのんで見守る中、住民側勝訴の高裁判決が言い渡された。

「新たな土地利用計画に経済的合理性が認められないにもかかわらず、漫然と従前の土地利用計画に基づいて埋め立て工事が継続されているとすれば、この工事に係る公金の支出などの財務会計行為は違法となる」

泡瀬干潟をめぐる主な動き

74年	コザ市と美里村が合併して沖縄市が誕生
87年	沖縄市が埋め立て構想を打ち出す
95年	県が事業に参画。港湾計画とする
98年	国が浚渫土砂を泡瀬地区に投入するとして事業に参画
00年	埋め立てが認可・承認を受ける
02年	第1区域の工事開始
05年3月	「泡瀬干潟を守る連絡会」のメンバーが市と県に住民監査請求するも却下
5月	市民ら516人が県と市は公金支出差し止めを求めて那覇地裁に提訴
06年4月	市長選で東門美津子氏が事業推進派候補を破って当選
07年12月	東門市長が「第1区域推進、第2区域は推進困難」と意見表明
08年11月	那覇地裁が知事と市長に公金支出差し止めを命令。その後、県と市が控訴
09年1月	第1区域への土砂投入開始
8月	総選挙で「第1区域推進、第2区域中断」を表明する玉城デニー氏が当選
9月	前原誠司・沖縄担当相が「第1区域中断、第2区域中止」の方針を明示
10月	沖縄市議会が事業推進を求める意見書を賛成多数で可決
	福岡高裁那覇支部が一審判決を支持。県と市の控訴を棄却

裁判長が告げた時、静かだ。どよめきが法廷に広がる。「漫然」とはよく言った。いつになっても終わらず、目的や用途も喪失しても、坂道を滑り落ちる暴走車のように止まらない公共事業の本質を突いた判決だった。高裁判決がここまで踏み込んだ影響は計り知れない。

原告側勝訴の那覇地裁判決(08年11月)から1年足らずで迎えた今回の控訴審での争点は、早期決着を求める原告

住民側弁護団の方針もあって、「経済的合理性」の一点に絞られた。現地調査もした福岡高裁は、「泡瀬干潟」の自然環境資源としての価値と、「開発」の相関関係をよく比べた上で判断を下したに違いない。

振り返れば、一審判決でも工事は止まらなかった。沖縄県と沖縄市は控訴に踏み切り、国(沖縄総合事務局)は「沖縄振興にとって重要だ」と今年1月15日に新港地区の浚渫土砂の投入を始めた。「止まら

ない公共事業」の姿そのものだった。先の総選挙で政権交代を生んだ「民意」は、こうした「官の暴走」と従来は協調してきた裁判所の「司法判断の転換」をも生み出した。

15日午前、泡瀬干潟に立った私は愕然とした。干潟を圧迫するように、国と沖縄県による埋め立て地の護岸工事が続く。石材を積んだタンクやパワーショベル車が首をふる

仕事を遠目に、干潟を歩く。南西諸島最大の泡瀬干潟は、渡り鳥のオアシスだ。シギ、チドリなど多くが飛来して、ムナグロは全国の53%がここで越冬するという。貝類も300種類が生息する。海草、藻も豊富で、干潟全体が「自然の学校」だ。

環境省OBの水野隆夫さんが、目を細める。「干潟に来ると時間を忘れて

生き物と触れ合うことができると。子どもたちへの環境教育にも絶好の場所ですし、競争社会で疲れた大人も無心になれます」

8年前と同様、ミナミコメツキガニの行列が岩場から愛嬌たっぷりに登場してくれた。沖縄総合事務局の先導で仮設橋から埋め立て工事現場へ向かうと、93%の埋め立て地を囲うように護岸が造られ、

内側に浚渫土砂が投じられていた。中は海面だが、外洋とは断絶されている。東側に弓なり状の人工ビーチが広がる。

「長さは約800メートルあります。県内で最大規模です」

と同事務局の担当者は自慢げだ。石とコンクリートで基礎は整い、後は砂を投入するだけでビーチは完成する。やがて海面に残りの浚渫土砂が投入されれば、新しい土地が生まれる。工事関係者としては「完成まであと一歩」という心境だろう。

沈んだ中心市街地との相乗効果を期待したい

沖縄市長 東門美津子

泡瀬干潟の埋め立て問題は、私の支持母体の中でも賛否が分かれています。実際、推進、反対の双方の人がいます。私自身、「干潟をなるべく大切にしたい」という気持ちはあります。ただ、埋め立てにより事業を進めないと沖縄市には土地がないのが実情です。中心市街地は、かなり落ち込んでいます。沖縄市（コザ市と美里村が合併）となって35年、米軍基地に多くの土地を取られて、海に新たな土地を求めてきた経緯があります。国の新港地区の開発で出た

土砂の処分場と、沖縄市の埋め立て事業の双方が合致して、ここまで動いてきました。若者の雇用の方も必要だし、（開発は）地域の長い年月をかけた夢でもあるのです。

私は07年、「第1区域推進、第2区域困難」と表明しましたが、それに伴って土地利用計画を大幅に見直しました。

県の事業である「人工ビーチ」などはそのままですが、「スポーツコンベンション拠点」と

「国際交流リゾート拠点」という二つの方向性で検討が進められています。

表明をしたからには、実現を図りたい。沈んだ中心市街地と連携して、相乗効果を期待できるような事業にしたい。

10月4日に現察に訪れた前原誠司・沖縄担当相には、こうした地元の現状を話しました。前原大臣は、「費用対効果は大丈夫なのか。果たしてベイでできるのか。民意で選ばれた東門市長の判断も大事だ」と言っていました。

高裁判決は厳しく受けとめ、今後の対応を考えます。その上で、公の発言をします。

人影のない街の変貌に驚いた。午後7時過ぎに中心部の商店街のアーケードは薄暗い。立ち去った商店の跡地が痛々しい。

「なぜ、こんなに街が寂しくなってしまったのか」

と、顔を合わせた初老の男性に思わず聞いた。

「昔は賑やかだったね。だんだんと落ち込んできた。ここには大きなスーパーもホテルもない。駐車場付きの大型店舗のある（隣接の）北谷町などに行ってしまう」

商店主たち数人が酒をひっかけた場では、「泡瀬干潟開発」を期待する声もある。「沖縄は、どこでも埋め立てしてきた。なぜ、こんな貧しい沖縄市の小さな埋め立てだけが批判されるのか。とにかくそこにホテルを誘致して、経済を活性化しないと先行きの見通しがまったくない」

ただし、泡瀬干潟と沖縄市の中心市街地は車で約15分の距離にある。仮にホテルができたとして、両者にどのような「相乗効果」（東門市長）が可能なのか未知数だ。

市の面積の36%を占める米

菅家利和著 『冤罪』

ある日、私は犯人にされた

史上最悪の冤罪、その真相。

好評発売中

定価1260円

朝日新聞出版

軍基地の存在も、歪んだ構造を正せない障害となっている。「土地がない。だから海に拡張しよう」と、夢を描こうとした沖縄市政は大きなター

ニングポイントを迎えた。東門市長に言いたい。計画を撤回し、県と協議して上告を断念してほしい。大きな時代の流れは「止まらない、や

められない」という「官僚の独善」を許さない方向に進んでいる。そもそも、自然の豊かさがあってこそリゾートであり、観光が成立する。生物

多様性の宝庫をつぶして人工ビーチとホテルをつくる計画に怒った原点に戻ってほしい。その上で、中心市街地の立て直しに舵を切ってほしい。

田会（福田経済研究会）を作り、選挙の実動部隊にした。65年に結成された地元八ツ場ダム連合対策委員会委員長になった好夫さんは、福田元首相との太いパイプを使って有利な条件を引き出そうと、建設省（現・国交省）と交渉を進める役回りをしたのです」（同）

利権に群がった「ダム成り金」たち

群馬・吾妻川の八ツ場ダム

「萩原好夫 群馬県知事 小寺弘之書」

「好夫さんが地元のために奔走したのは事実です。でも、彼は反対派リーダーどころか、むしろ地元では「条件付き賛成派として、ダム建設のために闘った」と後ろ指をさされて

一面も持っていたのです。そして、自分はさっさと補償金をもらって東京・世田谷に家を建て、近くでアパート経営もしている。一家がもらった補償金は、相当な額だと言われています」（別の地元住民）

八ツ場ダムはもともと、地盤（中選挙区）の福田元首相が強硬に推進してきた経緯がある。そのため、地元では「福田ダム」とも呼ばれる。「ダム建設で地元が発展する」と言われたから賛成に回ったが、実際は生活再建も進まず、寂れていくばかり。好夫さんに騙された。八ツ場ダムは国家的詐欺ですよ。その「首謀者」の息子・康夫（元首相）さんは、父の負の遺産を清算することが先決なのに、一度もここに来たことがありませんでした」（地元住民）

群馬・吾妻川の八ツ場ダム建設予定地（長野原町）を見下ろす川原湯地区の打越代替地。水没地の住民たちが移住するために河岸の山を削って造成されたこの分譲地の端に、その墓地はあった。

「萩原好夫 群馬県知事 小寺弘之書」

「好夫さんが地元のために奔走したのは事実です。でも、彼は反対派リーダーどころか、むしろ地元では「条件付き賛成派として、ダム建設のために闘った」と後ろ指をさされて

一面も持っていたのです。そして、自分はさっさと補償金をもらって東京・世田谷に家を建て、近くでアパート経営もしている。一家がもらった補償金は、相当な額だと言われています」（別の地元住民）

八ツ場ダムはもともと、地盤（中選挙区）の福田元首相が強硬に推進してきた経緯がある。そのため、地元では「福田ダム」とも呼ばれる。「ダム建設で地元が発展する」と言われたから賛成に回ったが、実際は生活再建も進まず、寂れていくばかり。好夫さんに騙された。八ツ場ダムは国家的詐欺ですよ。その「首謀者」の息子・康夫（元首相）さんは、父の負の遺産を清算することが先決なのに、一度もここに来たことがありませんでした」（地元住民）



「礼人さんは補償交渉委員会の川原湯地区の委員長として国土交通省との交渉に当たりましたが、一方で福田元首相の私設秘書だったという

「川原湯地区は、福田派の牙城でした。福田元首相は当時、ダム推進派を集めて「福

「川原湯地区は、福田派の牙城でした。福田元首相は当時、ダム推進派を集めて「福